



「学びがつなく、Well-beingな未来」

<https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp>



YAMANASHI EIWA
COLLEGE

かけはし



KAKEHASHI 2025 vol.54
山梨英和大学後援会 会報



Contents

学長・後援会名誉会長メッセージ	01
後援会長あいさつ	02
本学におけるキリスト教教育について	03
学生生活について	04
附属図書館より	05
進路情報	06
学生相談室だより	07
保健室だより	07

学生会紹介.....	08
紅楓祭実行委員会紹介.....	08
新任教員紹介.....	09
教員紹介	10
2025年度後援会総会報告・理事紹介	11
2024年度決算書／2025年度予算書	12



塚本 俊也

学長
後援会名誉会長

「成長させてくださる神の導き」

皆さま、はじめまして。最初に少し自己紹介をさせていただきます。私は18年間、国際NGOにおいてルワンダ、コンボ、東ティモール、アフガニスタンなどで紛争後の緊急支援と復興開発に従事してきました。その中でさまざまな危機や課題に直面し、人道支援を行ってきました。その後いくつかの大学と研究所において、人道支援に携わることのできる人材の育成を目標に教鞭を取り、国際開発学、紛争分析、リスクマネジメント、感染症危機管理学などを専門に教えてきました。

私は10歳までブラジルで育ち、日本帰国後すぐに母が他界しました。日本語の読み書きができない中始まった新しい生活は、幼いながらも荒海に放り出されたように感じました。そのときのさまざまな体験が、のちの国際NGOでの働きや私の専門や研究の根底にあるように思います。19歳で洗礼を受け、クリスチャンとなりました。その後、不思議な出会いや導きにより神学部で学ぶ機会が与えられ、牧師になりました。神様の召命を受け、広島教会に赴任しました。ある日の出来事です。当時流行っていた「スケバン」の高校生が教会の前に立っていました。私はどうしたらよいか分からないながらも声をかけ、教会へと誘いました。すると、驚いたことにその高校生は素直に教会に入ってきたのです。長いスカートを履き、髪を金色に染め、たくさんのアクセサリーを身につけていたため、礼拝に集う信徒の方々はその姿に驚いた様子でした。私はその高校生と聖書研究をすることになりました。それまで聖書研究の経験がなかったため、ただひたすら聖書を読み、互いに感想を述べ合いました。3か月すると彼女に変化が起きました。スカートの丈が短くなり、髪の色は黒色に変わりました。数えきれないほどのピアスが、耳たぶだけになりました。その後も聖書研究は続き、6か月するとさらに落ち着いたように感じました。出会いから9か月経ったクリスマスの日、彼女は洗礼へと導かれたのです。私は彼女と聖書の言葉を分かち合い、祈ること以外、特別なことをしたわけではありません。この彼女が少しずつ変えられていく姿は、神様が彼女に働かれたことを確信し、この経験は牧師としての礎となりました。

コリントの信徒への手紙一3章4～7節、「ある人が『わたしはパウロにつく』と言い、他の人が『わたしはアポロに』などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に应じて仕えた者です。わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」とあります。聖書の言葉と祈りは、注がれた水となったのかもしれませんが。しかし彼女の心の奥底に働きかけ、成長させてくださったのは神です。

山梨英和大学に赴任して4か月が過ぎようとしています。前期のチャペルアワーでは数回、私が経験したことを語ることができました。これからも牧師、国際NGOとして世界で見えてきたことや経験してきたことを英和の学生たちに伝えていきたいと思います。また、さまざまな場面で学生たちとの出会いが与えられています。そういった中でまず私ができることは、グローバル社会が抱えている多様な課題や現状を、学生に伝えていくという種蒔きです。学生それぞれの「自分らしい学び」を文理融合型のカリキュラムから探究し、身体的・精神的な充実はもちろんのこと、社会とのつながりや生きがいを感じながら生きる「Well-being (ウェル・ビーイング)」となるよう、多彩な学びの機会をつくっていきたくて考えています。日頃より後援会の皆様のご支援とご協力を心より感謝いたします。山梨英和大学に連なるすべての方に神様の祝福があるように祈りながら、職務を全うしていきたくておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



飯島 正敏

後援会長

「自分らしい学び」の発見

連日の猛暑にすっかり弱くなりつつある齢を迎えました。一体この暑さはいつまで続くのでしょうか。一昨年には「古稀」を迎え、いよいよ人生も最後のラストスパートに入りました。山梨英和の庭で学んだ私の娘たちもすっかり成長し、なんとか、それぞれの道を歩んでいます。

昨年、ひょんなことから「子猫」が、迷い込んできました。家で飼ってみようかと思案していたら、突然発作を起こしてすぐに動物病院に連れていき、なんとか一命をとりとめました。縁あって助けた子猫も今では、すっかり大きくなって、この原稿を書いている私のそばでくつろいでいます。(残念ながら難病のため一生投薬治療が必要のようです。)

永らく英和大学後援会長を務めさせていただいたおかげで、キリスト教に触れ合う機会に恵まれて、私は、毎日「主の祈り」を唱えて一日を終える習慣がつかしました。そのおかげで心が穏やかに一日を終えることが多くなり、充実した日々を送っています。もし、よろしければ主の祈りを唱えてみてはいかがでしょうか。何か違った人生が始まるかもしれませんよ。

「主の祈り」

天にまします我らの父よ、
願わくはみ名をあげさせたまえ。
御国を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らが赦すごとく、
我らの罪をも赦したまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救いだしたまえ。
国と力と栄とは
限りなく汝のものなればなり。
アーメン

「主の祈り」を唱える事により、大学4年間で授業やクラブ・サークル活動、ボランティア活動を通じ、「自分らしい学び」を発見することができれば最高の大学生活になると思います。

さて、山梨英和大学も今年度から塚本俊也新学長が、ご就任されました。地域と、世界とつながる「楽しい大学」を創造するというお考えで山梨英和大学をご指導して頂けるということです。(詳しくは、メイプルニュースをご参照ください。)

我々後援会も新学長のお考えに賛同し、ご子息やご子女の充実した学生生活や就職支援活動に寄与してまいりたいと考えております。後援会の皆様の一層のご協力をお願い致します。

また、後援会事業に関しましてご意見やご要望がございましたら、お気軽に山梨英和大学までお問い合わせください。

終わりに、会員の皆様のご健勝とご多幸、山梨英和大学の益々のご発展を祈念いたします。

若者を歩むべき道の初めに教育せよ 旧約聖書箴言22:6

宗教主任 永井 英司

ご存知の通り、本学では共通科目の中にキリスト教概論1が設けられており、新入生が受講する。授業では「新共同訳聖書」を用いながら、学びを進めていく。

学生たちは、聖書やキリスト教という言葉を知ると、古臭くて自分には縁遠いものという先入観を持ってしまいがちに思える。しかし、日々、マスコミ報道で見聞きするパレスチナ、ガザ、イスラエルという言葉について説明し始めると、あにはからんや彼らの瞳は輝き始めるのである。なぜなら、これらの言葉が、聖書に起源している実事に驚かされるからである。

中でもガザという地名は、紀元前1500年前に遡るとともに、当時から商業や軍事面においても最重要拠点であったこと、旧約聖書の時代から変わることなく存在し続けていること、何よりもこの歴史的事実を証明している文書が聖書であることに驚くのである。

学生は「目から鱗が落ちる」という諺を、身をもって体験することになる。それに止まらない。この諺の出典が新約聖書の中の「サウロの回心」と言う出来事から採られていることを知らされると、彼らの瞳は更に大きく開くのである。まるで、これまで自分が身に付けてきた様々な知識や価値観が揺らぎ始めるかのようにである。

更に、学生には、あの重要な言葉「ヘウレーカ!」というギリシャ語をも紹介する。この言葉もまた、新約聖書に用いられている重要な言葉であり、探し求めていたものを「見出す、知る、分かる、ヘー!」というように意識される。

大学での学びは、難しくて分からない、取付きにくいと学生は感じてしまいがちである。その通りであり、それで良い。知っている事を改めて学ぶ必要は余りない。大学は未知なるものに出会い、学究し合う場であることは言うまでもない。そんな時、学生には「邂逅」という言葉を提示する。この言葉は人間のみならず、新しい学問、文化、芸術、価値観に出会うことによって、これまでとは異なる新しい「自分」として生き始める、そのような出あいを意味していると考えからである。

その出あいを提供する場が本学であり、本学で学ぶ意味と価値であると考え。

学生たちは「そうは言っても・・・!」と尻込みするかもしれない。しかし、何の心配も恐れも要らない。手元に『ウィトルーウィウス建築書』という本がある。この中には、あのアルキメデスの逸話が記録されている。彼は難問題を背負わされ行き詰まっていた。詳細は割愛するが、その苦悩の只中、「偶然に」解決の糸口を見出すことができたのだ。余りの喜びに、彼は、我を忘れ「ヘウレーカ!ヘウレーカ!(分かった!見つけた!)」と裸で叫び回った、というのである。苦学力行を重ねて得られるその喜びや感動は、何物にも変え難く、筆舌を絶するものがあることは、昔も今も変わらない。

この「邂逅」と言う言葉とも関連するが、学生には「セレンディップ」についても紹介する。この言葉は、『セレンディップの3人の王子』と言うペルシャのお伽話から生まれた言葉とされている。これも詳細は割愛するが、3人王子が旅をする中、様々な困難に遭遇する。彼らは自分の知識、経験、洞察力を駆使しながら、新しい道を切り開き、獲得していく、と言う寓話である。偶然や失敗と思われる事にこそ価値があり、そこには希望や可能性が潜んでいることをも教えてくれる。人間の成長にとって本当に必要な知恵は、正しい知識・観察力・洞察力の融合から生み出される、というのがその通りである。

最初に戻ろう。キリスト教概論では、先ず聖書に関する知識を学ぶ。歯触りが悪く飲み込むためには咀嚼を要するが、この学びを礎としつつ、いのち、人間、愛等々について、旧・新約聖書に聴いていくのである。そこには汲み尽くせない宝が満ちているからに他ならない。

本学(クリスチアンスクール)での学修生活はここに礎が据えられており、その上に、各自が専門職者を目指して必要な諸学科目を積み上げていくのである。学生たちが互いに勉励し、各自の目標に到達して行く事を願って止まない。「蝸牛、角に日を浴びて進むが如く」にである。在学生の全てが、掛け替えのない青春時代を謳歌することを祈念する次第である。



学生チャレンジプロジェクト ～ 学生が成長できる環境をつくる～

副学長・人間文化学部長 難波 道弘

昨年原稿では、「学生が学び合う環境をつくる」ための取り組みとして学修サポートデスクを紹介しました。今回は「学生が成長できる環境をつくる」ための取り組みを紹介したいと思います。

学生の活動の中には、ゼミや授業のような正課の活動ではなく、正課外の学習活動においても特色のあるものがあります。昨年から始めました大学公式noteでは、実際に特色ある活動を行った学生自身に書いてもらった記事を掲載しています。ご一読いただけたら幸いです。もちろん正課の活動でも特色のある取り組みを行っており、そのような記事も随時掲載したいと考えています。

さて、今後も学生ならではの発想力と行動力で様々な課題解決にチャレンジしてもらいたい。そんな思いで、特色ある活動を大学として支援するしくみ(学生チャレンジプロジェクト助成)を作りました。学生(個人またはグループ)による大学活性化/地域活性化/社会貢献/国際交

流のいずれかをテーマとした企画を募集し、採用された企画には活動資金(1件につき上限5万円)を補助します。活動資金の補助にあたっては、大学後援会の皆さまからのご支援を学生に還元できるよう、こちらから充てさせていただきます。また学生の募集状況によって今後の支援枠を検討したいと考えております。活動した学生には学内報告会でのプレゼンのほか、大学公式noteや「かけはし」で原稿を書いてもらう予定です。学生が大きく成長できる機会であると考えており、多くの学生がチャレンジをしてくれることを期待します。



大学公式note

未来のWell-beingの 担い手を目指す大学院生たち

大学院人間文化研究科長 佐柳 信男

本学大学院は、臨床心理学専攻の修士課程に特化した臨床心理士と公認心理師の養成機関です。40年近くの歴史がある民間資格の臨床心理士と、7年前に国家資格として作られた公認心理師の資格保有者は、精神病院、学校、福祉施設など様々な分野で働いており、心の問題の治療や生活上のwell-beingの向上のために活躍しています。

本学大学院を修了すると、臨床心理士と公認心理師の受験資格が得られ、本学修了生の現役合格率はどちらも毎年全国平均を上回っています。修了後の進路は、県などの自治体の専門職員、精神科病院や福祉施設の専門職、スクール・カウンセラーなど多様な職場で活躍しています。

山梨県内唯一の心理学の専門職養成機関であり、さらには教育や進路の実績も積み重ねがあることから、県外からの受験も多く、年によっては入学選抜の倍率が3倍に達するなど、狭き門をくぐり抜けた目的意識の高い学生が多く集まっています。入学者のうち、本学出身者と他大学出身者の割合は同じ程度で、社会人入学も多いという特徴があります。

大学院の2年間で必要な知識や技術を身につけるためには多くの授業や実習が必要です。本稿を執筆しているのは前期の終盤ですが、先週の授業で1年生たちに感想を聞いたところ、全員が口を揃えて「とても忙しかった!」と言っていました。どの授業でも多くの課題が出されており、さらに修士論文の準備も進めて行く必要もあるので、無理ありません。一方で、新たな気づきや学びも豊富に得ていると異口同音に語っていたことから、充実感にもじみまします。これから夏休みは集中講義も多く、後期もたくさんの授業と演習に加えて学内実習も始まり、2年生になると学外実習と修士論文研究のための調査と、論文の執筆が続きます。このように怒濤の、濃密な2年間を過ごす中で、大学院生たちは知識や技術を身につけるだけでなく、実習で様々な事例に触れたり、仲間で支え合ったりしながら、人間的にも成長していきます。将来の山梨県と日本のwell-beingを支える担い手としてとても頼もしく思いながら、毎年学生たちを見守っていけるのは教師冥利に尽きます。

学びと生活をつなぐ「居場所」としての図書館

附属図書館長 佐柳 信男

学生の学修と研究のサポートが大学附属図書館のひとつの重要な使命ですが、本学では最近「学生の居場所」としての機能も意識して少しずつ強化しています。高校までとは違い、大学は授業の間に空き時間があるので、その時間をどのように過ごすかが大学生活でのwell-beingのカギだといえます。図書館が安心できる「居場所」として機能することで、学生生活が快適になるだけでなく、学修や研究についても効果的にサポートを受けやすくなることが期待できます。

一昨年度に立ち上がった、図書館入り口のKコモンズで実施されている「学修サポートデスク」は図書館への呼び水となっていて、図書館の入館者数は増加傾向にあります。サポートデスクで担当の教員や先輩からもらったアドバイスの記憶が新鮮なうちに図書館の学習机で課題と向き合う学生の姿がよくみられます。また、今年度は1年生向けのオリエンテーションを新学期の早い時期に実施できたことから、1年生の利用も目立ちます。課題だけでなく、書架で見つけた書籍を読む、休息を取るなど、学生たちは思い思いに図書館で過ごしています。司書たちも積極的な声かけを心がけており、そこから学修サポートデスクにつながることもあります。5月には学生相談室のカウンセラーと協力し、辞書を使ったゲーム「たはいや」のイベントを実施しました。今後は、図書館の居心地をよりよくするための改善策を考えていきます。



図1 多摩市立中央図書館 見学会の様子

また、司書課程のある本学では、司書課程のサポートと、司書課程と関連した地域貢献や地域連携活動も附属図書館の大切な使命です。司書課程の学生向けのイベントとしては、今年2月に約10名の学生が甲府市立相川小学校の図書室の見学会に参加しました。相川小学校図書室の司書は本学の卒業生で、学生たちは先輩の仕事について熱心に耳を傾けていました。毎年恒例の県外図書館見学会は今年3月に開催され、約20名の学生が東京の多摩市立中央図書館に参加しました(図1)。5月には、山梨県立文学館から講師をお招きし、ZINE(ジン)のワークショップを開催しました。ZINEとは、個人が好きなテーマで自由に表現するいわば同人誌のようなもので、学生14人が自らのこだわりの詰まったZINEを制作しました。

司書課程の学生が多く参加する学生協働活動サークルLIKE(ライク)は、学内外で大活躍していて、「居場所としての図書館」と地域連携に重要な役割を果たしてくれています。LIKEのメンバー以外にも参加を呼びかけた5月の図書館でのお茶会には多くの学生と教職員が参加し(図2)、定期的に開催している読書会も和気あいあいとした雰囲気(図3は6月の読書会の様子)、学生を図書館につなげる大切な役割を果たしてくれています。また、毎年8月の甲州市立勝沼図書館が主催する小学生向けの夏休み読書感想文講座と、12月の山梨市立図書館の子ども向けクリスマス会へLIKEの学生が講師として参加することが恒例となっていて好評を博しています。LIKEはやまなし読書活動促進事業実行委員会のサポーターとしても活動していて、県の読書推進活動イベントにもメンバーが多く参加しています。昨年11月のYAMADOKU BOOK FEST 2024に出展した「らいくん文庫!」は、2024年度学生イニシアチブ事業の奨励賞を受賞しました(図4)。

附属図書館では、引き続き大学図書館ならではの機能や役目を果たしつつ、学生たちがより積極的に訪れたい、学びたいと思ってもらえるよう、引き続き全力で学生たちを支援していきます。



図2 お茶会の様子



図3 6月の「推し本読書会」の様子



図4 2024年度学生イニシアチブ事業表彰の様子

学生の就職意識の変化

学生・キャリア支援センター 進路部次長 宮川 仁

▼大学生の最近の就職事情

ここ数年間、大学生の就職事情は超売り手市場、職場での人材不足という状況が続いています。一方で、学生たちはインターンシップや早期選考といった現在の就職活動の主流に流されながらも、「なりたい未来」をそれぞれ描きながら就職活動に取り組んでいます。情報は氾濫し、就活に関する様々な情報が簡単に手に入る現代、私共保護者世代のように、足で稼ぐ(何社も何社も会社説明会に参加し、選考を受ける)就職活動ではなく、WEBやオンラインなどを駆使した活動がもてはやされています。

就職（新卒紹介）エージェントと呼ばれるスカウトサイトに一旦登録すると、自分に合った企業からオファーが来るといった時代です。自ら自己分析を行い、自分の適性に合った職業を探し出すといった地道な就職活動を行う学生が減少しています。（本学ではまだ少ないですが）このような就職活動が蔓延し、大学における就職（進路）支援も学生に届かないことも多くなりました。しかし、エージェントを使った学生と大学の支援を受けて就職先を決定した学生の満足度でみると、WEBや就職エージェントを利用した学生の満足度が高くないことが見えてきます。結果的に、内定辞退や早期離職に繋がってしまうという悪循環が昨今の社会問題となっています。



▼進路支援とキャリア形成支援

2025年4月より山本明歩教授をセンター長に迎え、進路やキャリア形成の包括的支援を実施しております。本学での進路支援で最も大切にしているのは、「主体的(自律的)なキャリア発達」です。その基本は、キャリアコンサルタントや企業の人事採用の経験者という専門家を配置し、個々の学生に寄り添う支援です。本学の進路支援の特徴としては、①体系的なキャ



進路オリエンテーション(1年生)

リア形成支援です。基本的な軸は「自己概念の確立」→「内的キャリアの醸成」→「自発的なキャリアデザイン」→「自ら望む進路選択」です。次に、②専門人材による高付加価値な支援です。キャリアコンサルタントやインターンシップ専門人材、種々アセスメントのライセンス取得など、キャリア支援の専門技術を修得したスタッフが支援いたします。最後に、③「1on1キャリア・コンサルティング」です。通常は予約制にて相談を受け付けていますが、インターンシップに参加する2・3年生や就職活動が始まる3年生の秋、4年生の春などには定期的に“全員面談(個別面談)”を実施しています。

▼学生の就職意識の変化

大学生が職業に求める1位は「楽しく働きたい」、2位は「個人の生活と仕事を両立したい」、3位は「人の為になる仕事をしたい」、そして、再下位は「出世したい」という調査結果があります。(マイナビ2025年卒大学生就職意識調査) 私共の世代のような「出世したい。」「高い給料を稼ぎたい。」といった欲は持たず、とにかくライフワークバランスと言う学生が増加しています。これはZ世代の特徴ともいえますが、保護者の年代から見ても世代間ギャップを感じてしまうのではないのでしょうか。そこで、保護者の皆さまにお願いしたいことは、①学生の仕事・キャリア観も変化していることを理解する。②会社選びに正解はなく、学生本人の納得感を重視する。③学生の志望先に対し、むやみに否定しない。関わりすぎも良くない。ということです。最後になりますが、私共は学生一人ひとりに寄り添った支援を目指しております。保護者の方からのご相談やご面談のご希望がございましたら、お気軽に進路部にご連絡いただけますようお願い申し上げます。

自立と反対の言葉は？

学生相談室では毎年1年生必修の基礎ゼミナールでクラスごとに体験的ガイダンスを行っています。相談室へ実際に足を運んでもらい、面接室のソファに腰を下ろしてカウンセラーから話を聞いたり、多目的室のいこいのスペースでゼミの仲間とレクレーションを楽しむことで、相談室が提供するカウンセリングやグループイベントの雰囲気や楽しさを体感してもらうことが目的です。プログラムの中で必ず説明するのは、自立という言葉の意味の半分は自分のことは自分でできるようになるということ、とても大事なもう半分は困ったときに人に助けを求められるようになるということです。人間の力が有限であることを認めて、必要な時には必要な助けを得られる人になってほしい、相談室はその練習場所の一つだと考えていると伝え、少なくない数の学生たちが頷いてくれます。

では、自立の反対語は何だろうかと考えた時、それは孤立だろうと思います。熊谷晋一郎教授は「自立とは依存先を増やすこと」と述べています。依存先を増やすとは、いざという

学生相談室 主任カウンセラー 設楽 友崇

時に頼ったり助けを求めたりできる先を増やすことです。その反対に、周りに自分の味方がおらず、誰にも何にも頼ったり助けを求めたりすることができないという状態が孤立です。私たちは孤立に陥ると、今ある自分の力すらも発揮しにくくなります。嫌な例ですが、いじめやDVの加害者はまず被害者を孤立させ、力を奪い、自分に従属させようとします。また、そのような悪意に基づかない場合だったとしても、何らかの困難な状況に人知れず陥った時には、誰でも助けを求めることが難しくなります。そこで、いざという時のために日頃から相談室を練習に使ってほしいという先のメッセージになるわけです。

私たち相談室は、学生たちが孤立することなく、依存先を増やしなが、真の自立を目指すことを応援します。そして、後援会員であるご家族・保証人のみなさまとも、学生たちの自立について一緒に考えていけたらと願っています。お気軽にご連絡ください。

直通電話 / 055-222-5640



健康診断の大切さ～生涯健康を目指して～

保健師 雨宮 加奈

日本では、妊婦健診に始まり、学校健診、職場健診、地域の健診と、一生を通じて定期的に健康診断を受けることができる仕組みが整備されています。症状が出る前に早く病気を見つけたり、病気にならないように工夫するためのものです。小さい頃から健康診断を受けている私たちにとっては当たり前に感じるかもしれませんが、国民全員が生涯にわたり健康診断を受けることができる国はほとんどなく、世界的にとってもすごいことです。

本学でも年に一度、健康診断を実施しています。健診実施のお知らせをポータルメールで行い、日程を確認し指定時間に受診します。健康診断の受診項目は、胸部レントゲン撮影、内科診察、尿検査、血圧測定、身体計測（身長・体重）です。限られた検査項目ですが、自覚症状がない病気でも早期に発見できる可能性があります。実際、内科診察で甲状腺が腫れているとの所見があり病院を受診したら甲状腺腫だった、尿検査で糖が認められ精密検査をしたら糖尿病と診断された、血圧が高いため服薬を開始したなど様々な例があります。大学生時代のわずかな健康不良状態や好ましくない生活習慣は、将来の健康障害や疾病に繋がることが少なくありません。自覚症状がなく、生活に大きな支障がない場合も多いため、再検査や精密検査を受ける必要性は感じにくい

かもしれませんが、病気を早期に発見し早期に治療するために、健康診断は重要な役割を担っています。

健康診断の結果は、受診から約1か月後に開示しています。経年的な変化を見ることができたり、病院受診の際に携帯で結果が提示できるよう工夫しています。健康管理の大切さを知り、生涯にわたり心身の健康を守り続けていけるよう、今後も健康の種まきができる支援をしていきたいと思えます。身体面や健康診断結果等で心配なことがありましたら遠慮せずご相談ください。



保健室は講義棟入口近くにあります

「変化」を恐れない

私たち学生会は、会計・企画・書記・広報の4つの部署構成のもと、現在約40名で活動しております。学生の皆さまからいただいた学生会費を使用して、各サークルの予算管理やイベントの企画・運営を行っています。私は今年度の学生会で、日々「変化」を求めながら、その先にある「楽しい」を体現できるような組織を目指しています。「変化」というものはそう簡単に起こせるものではなく、必ずしも良い化学反応が起きると言い切れません。ですが、私たちは学生の時に新型コロナウイルスを経験し、様々な変化に対応し向かい合う術を身につけました。「変化」を恐れず、受け入れ、自分たちに合うように変えていこうとい



学生会会長 穀田 京香

うコロナ禍で得た教訓を活かし、まずは学生会が進んでいく。その先に「楽しい」が待っている、と私は考えています。自由な時間が最も多く、さまざまなことにチャレンジできるのが大学生です。学生会では大学生活がより良いものになるような活動や手助けを行なっています。学生会主催のイベントをはじめ、学生会内でたくさんの会議を重ねて、今の山梨英和大学だからこそ体感できる時間を作ることができるよう考えています。参加してくれた学生の感想や楽しそうな様子は私たちの活動の励みにもなっています。前期ではサークルブースとサークルの紹介を行い、7月に開催した七夕フェスティバルでは音楽系団体の発表や浴衣等を着用して1日を過ごすイベントも行いました。今後は学園祭での出展やハロウィンイベント、焼き芋イベント、クリスマス祝会などを予定しており、いずれも昨年度よりも楽しいイベントになるように計画しています。学生会含め学生全員が楽しみながら過ごせる環境や、思い出に残る活動にできるよう学生会メンバー全員で尽力したいと思っています。

終わりに、私たち学生会が活動できるのは多くの方のお力添えがあってのことです。ご理解やご協力に感謝しながら、より良い大学づくりのために活動していきたいと思っています。今後とも学生会をよろしくお願いいたします。

紅楓祭実行委員会

あなたの想いが咲く場所を

私たち紅楓祭実行委員会は、11月に行われる紅楓祭の企画・準備・当日の運営を行なっています。ビンゴ・新企画・芸能・広報・縁日の5つの部署に分かれており、メインステージの企画、本番でのMCからスポンサーやキッチンカーの募集、パンフレット制作など幅広い活動を行なっています。今年はメンバーが大幅に増え1つの部署に約9人が所属する大きな団体になりました。メンバー全員で協力しながら和気藹々と準備を進めています。

昨年の紅楓祭では、多くの方々にご来場いただき、活気に満ちた二日間となりました。私自身も企画の一つでMCを務め、多くの観客の前でステージに立つという貴重な経験をしました。ステージ前を埋め尽くすほどの観客と、会場全体の熱気に包まれたあの景色は今でも鮮明に思い出されます。それは、今まで当たり前だったものがそうではなくなった経験があったからこそだと感じました。今年も無事、制限なしで開催ができることをこの上なく喜ばしく感じています。

さて今年の紅楓祭のテーマは「千紫万紅」に決定しました。千紫万紅（せんしばんこう）とは色とりどりの花が咲き乱れている様子を指す言葉です。花には一つ一つに個性があり、意味があり、想いがあります。学園祭も同じです。実行委員だけでなく、様々な人の協力のもと成り立ち、それぞれの

紅楓祭実行委員会委員長 雨宮 有良

想いがあります。一人一人の想いや来て頂いた方々の笑顔で溢れて欲しいという意味が込められています。また、実行委員、全員が着用するパーカーの色である「紫」と紅楓祭の「紅」が入っており、山梨英和大学だから出来る、私たちにしか作れない、そんな学園祭にしたいと考えています。

だんだんと紅楓祭が近づいてきており、活動も活発になってきました。メンバー全員で楽しむ心を忘れず、悔いの残らないように全力で駆け抜けていこうと思います。

最後になりますが、日頃よりお力添えいただいている多くの方々に心より感謝申し上げます。今後とも紅楓祭実行委員会をよろしくお願いいたします。



教育・研究情報、雑感等について

准教授 杉浦 篤志

このたび山梨英和大学に着任いたしました杉浦篤志と申します。これまで、情報科学を専門としながら、特に発達障害児の支援におけるICTの活用、とりわけAR(拡張現実)技術やゲームを用いた支援教材の開発に携わってまいりました。

研究の現場では、技術の進歩がもたらす可能性に日々驚かされると同時に、それが人の学びや発達にどう寄与できるのかを考え続けてきました。教育・福祉・テクノロジーという異なる領域をつなぐ実践的研究を通して、ひとり一人に合った学びの環境づくりを目指しています。

特に最近では、ARとセンシング技術を組み合わせた双方向的な学習支援ツールの開発や個別最適化された教材提供の研究に取り組んでいます。ICTは使い方次第で、誰かの「できない」を「できる」に変える力を持っていると信じています。

山梨英和大学では、データサイエンス1やメディアプロジェクト1といった科目を担当しています。どの科目でも心

がけているのは、文系の学生でも“わかる・使える”を実感できる授業です。ICTが苦手な学生にも寄り添いながら、実際に手を動かし、自らの手で課題を解決していく力を育てていきたいと考えています。

また、学生自身が自分の関心や得意なことを活かしながら、他者と協働してプロジェクトに取り組むような学びの場づくりにも力を入れていきます。自分のアイデアが社会や誰かの役に立つ経験を通して、自信を育み、挑戦する力につなげていけたらと思っています。

今後は、地域の教育現場や福祉施設との連携にも積極的に取り組み、大学と社会をつなぐ架け橋のような役割も果たしていきたいと考えています。学生とともに、地域に根ざした学びの可能性を広げていければ幸いです。

自然豊かな山梨の地で、学生の皆さんと共に学び、悩み、笑い合いながら、新しい価値を創造していけることを楽しみにしております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



着任のご挨拶

助教 小田 友理恵

はじめまして、4月に着任いたしました。学部の講義は前期に「心理演習ⅠB」を担当し、後期は「心理学実験」と「心理学的支援法Ⅱ」を担当予定です。また、実習は「心理実習Ⅰ」「心理実習ⅡB」「心理実習ⅡC」を担当しています。大学院では、「臨床心理実習ⅠC」と「臨床心理実習Ⅱ」を担当しています。

私にとっては初めての山梨での生活ですが、新年度が始まってからはそれまでの不安は吹き飛び、気がつけば4ヶ月が経とうとしています。引っ越してきた当初は、周囲の山々や晴れの日に姿を現す富士山に息を飲んでいましたが、少しずつその景色も日常になりつつあります。教職員の皆様にはあたたかく迎えていただき、わからないことも丁寧に親切に教えていただいています。時には生活面のアドバイスまでいただき、おかげさまでスムーズに学期のスタートを切ることができました。思い返せば、チャペルアワーや会議の前後の厳かな祈りの時間も、新生活での緊張を和らげ、大きな支えとなりました。そして何より、講義

や実習指導を通して、柔らかな感性を持ってひたむきに学び、実習現場で出会う方々や子どもたちと真摯に向き合う学生の姿勢に、自らの臨床への向き合い方を省みる毎日です。

私の研究テーマの柱は「科学者-実践家モデル」です。臨床心理学において、目の前のクライアントと向き合う際に、研究という営みをどのように活かすのかに関心を持ち、歴史研究や理論研究も含めて、さまざまなアプローチで取り組んでいます。また、研究とともに現場での実践も大切にしたいと考え、スクールカウンセラーとしても活動しています。学校現場では、教職員の方々や保護者の皆様と協力して、児童の皆様の育ちに携わっています。

教育・臨床ともに日々反省と学びの連続ですが、山梨英和大学・大学院の学生の皆様の豊かな学びと成長を支えていけるように、精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



教員紹介



学長
塚本 俊也



副学長・人間文化学部長
教授 難波 道弘



副学長
教授 井上 征剛



人間文化研究科長
教授 佐柳 信男



臨床心理学専攻長
教授 小林 真理子



宗教主任 教授(特任)
永井 英司



教授
李 尚珍



教授
黒田 浩司



教授(特任)
小林 一之



教授
高橋 寛子



教授
山本 明歩



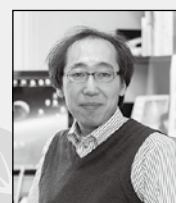
准教授
新居 みちる



准教授
桑本 佳代子



准教授
杉浦 篤志



准教授
槻館 尚武



准教授
三井 さや花



専任講師
大井 奈美



専任講師
河本 毬馨



専任講師(特任)
高見 研一



専任講師
Danny W. Brown



専任講師
根本 英彦



専任講師
劉 楠



助教
天野 早紀



助教
小田 友理恵



助教
野村 魁



教員情報



英和の学びの
案内人

2025年度 山梨英和大学後援会総会報告

日 時：2025年5月24日(土)15時00分～15時30分

場 所：山梨英和大学 110教室 (Gホール)

挨拶：飯島正敏 後援会会長

塚本俊也 後援会名誉会長 (学長)

議 事：

1. 山梨英和大学後援会総会の議題及び運営について
 - (1) 2024年度山梨英和大学後援会事業報告について
 - (2) 2024年度山梨英和大学後援会会計決算について
 - (3) 2025年度山梨英和大学後援会役員について
 - (4) 2025年度山梨英和大学後援会事業計画について
 - (5) 2025年度山梨英和大学後援会会計予算について

後援会長ならびに事務局から、配布資料に基づき、(1)～(5)までの議案について説明がありました。



2025年度 山梨英和大学後援会事業計画

4月2日(水) 山梨英和大学後援会1年生部会開催

(山梨英和大学入学式後)

副会長及び1年生理事選出

5月24日(土) 山梨英和大学後援会理事会・総会開催

2024年度事業報告・2024年度決算

2025年度役員・2025年度事業計画及び

2025年度予算

8月

会報「かけはし」第54号発行(印刷費他)

9月6日(土) 保護者懇談会共催(補助活動補助費)

11月1日(土)・2日(日) 第24回紅楓祭補助(補助活動補助費)

11月～3月 売店(コンビニ)・学食運営費補助(補助活動補助費)

就職活動諸費協力金支出(厚生就職費)

大学広報活動費支出(広報補助費)

学生活動場所の修繕費支出(修繕補助費)

3月13日(金) 卒業記念品贈呈(卒業記念品費)

2025年度 山梨英和大学後援会役員名簿

名 誉 会 長	塚 本 俊 也	(学長)
名 誉 副 会 長	難 波 道 弘	(副学長)
	井 上 征 剛	(副学長)
会 長	飯 島 正 敏	
副 会 長	池 川 良 樹	宮 城 隆
監 事	藤 巻 英 人	佐 藤 俊 一
会 計	望 月 一 志	—
4 年 理 事	芦 川 て み	茅 野 久 隆
	小 林 徹 三	小 松 敬 明
	河 住 悦 久	—
3 年 理 事	香 山 浩 子	長 田 あ ゆ み
	戸 梶 文 恵	依 田 京 子
	—	—
2 年 理 事	平 井 裕 明	山 田 勝 博
	—	—
	—	—
1 年 理 事	相 原 洋	中 山 耕 史
	小 澤 剛	渡 邊 清 道
	—	—



2024年度 山梨英和大学後援会決算書

収入の部				(単位：円)
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
前年度繰越金	5,545,541	5,545,541	0	
前期末未収入金額	0	0	0	
前 期 会 費	5,010,000	5,000,000	10,000	@10,000×500名
後 期 会 費	4,770,000	4,860,000	△ 90,000	@10,000×486名
雑 収 入	939	2,783	△ 1,844	利息
合 計	15,326,480	15,408,324	△ 81,844	
支出の部				(単位：円)
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会 議 費	10,000	10,929	△ 929	理事会・総会茶菓子代
消 耗 品 費	30,000	0	30,000	
用 品 費	70,000	0	70,000	
通 信 費	150,000	92,748	57,252	理事会・総会案内郵送代、会報かけはし郵送代 他
印 刷 費	300,000	195,360	104,640	会報印刷代
奨 学 費	0	0	0	山梨英和大学奨学資金(貸与奨学金)については、原資が充足されているため当面支援を中断
設備補助積立金(定額繰入)	1,002,000	1,000,000	2,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付者数@2,000×500名)
補助活動補助給費	1,576,000	1,559,000	17,000	紅楓祭補助(@1,000×559名)学食運営費補助売店(2カ所)運営費補助
厚生就職費	1,100,000	1,100,000	0	就職活動諸費協力金
広報補助費	1,100,000	1,100,000	0	大学広報活動補助
福 利 費	70,000	25,000	45,000	弔慰金(学生1名、学生保護者2名)
卒業記念品費	464,000	475,860	△ 11,860	卒業記念品(170個)
寄 付 金	3,816,000	3,888,000	△ 72,000	山梨英和学院へ寄付(後期会費納付者数@8,000×486名)
雑 費	20,000	7,273	12,727	かけはし学生執筆謝礼(2名) 他
予 備 費	70,000	0	70,000	
次年度繰越金	5,548,480	5,954,154	△ 405,674	
合 計	15,326,480	15,408,324	△ 81,844	

2025年度 山梨英和大学後援会会計予算書

収入の部				(単位：円)
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
前年度繰越金	5,954,154	5,545,541	408,613	
前期末未収入金額	0	0	0	
前 期 会 費	4,660,000	5,010,000	△ 350,000	@10,000×466名
後 期 会 費	4,460,000	4,770,000	△ 310,000	@10,000×446名
雑 収 入	10,084	939	9,145	(2025年5月1日現在普通預金金利0.2%)
合 計	15,084,238	15,326,480	△ 242,242	
支出の部				(単位：円)
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
会 議 費	15,000	10,000	5,000	理事会・総会茶菓子代 他
消 耗 品 費	30,000	30,000	0	ハガキ用紙、角2封筒代(2,000枚) 他
用 品 費	70,000	70,000	0	
通 信 費	180,000	150,000	30,000	理事会・総会通知郵送代@85*487名)後援会報郵送代(@270*466名) 他
印 刷 費	300,000	300,000	0	後援会会報印刷代(26万)、資料印刷代他
奨 学 費	0	0	0	山梨英和大学奨学資金(貸与奨学金)については、原資が充足されているため当面支援を中断
設備補助積立金(定額繰入)	932,000	1,002,000	△ 70,000	設備補助積立金会計へ繰入(前期会費納付者数@2,000×466名)
補助活動補助給費	4,532,000	1,576,000	2,956,000	紅楓祭(53.2万:@1,000×532名)、学食運営費補助(350万)売店(2カ所)運営費補助(50万)
厚生就職費	1,000,000	1,100,000	△ 100,000	就職活動諸費協力金(就職指導・企業訪問・就職強化費)
広報補助費	1,000,000	1,100,000	△ 100,000	大学広報活動補助
修繕補助費	700,000	0	700,000	
福 利 費	70,000	70,000	0	会員・学生慶弔費
卒業記念品費	429,200	464,000	△ 34,800	卒業記念品@2,900(税込)×148個(前期卒業生含む)
寄 付 金	0	3,816,000	△3,816,000	
雑 費	20,000	20,000	0	かけはし学生執筆謝礼他
予 備 費	70,000	70,000	0	
次年度繰越金	5,736,038	5,548,480	187,558	
合 計	15,084,238	15,326,480	△ 242,242	

2024年度 山梨英和大学設備補助積立金会計決算書

(1) 普通預金の部				(単位：円)		
収入の部						
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要		
前年度繰越金	17,225,879	17,225,879	0			
設備補助積立金(定額繰入)	1,002,000	1,000,000	2,000	本会計から繰入(前期会費納付者数@2,000×500名)		
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0			
預金等利息	2,917	7,685	△ 4,768	利息		
合 計	18,230,796	18,233,564	△ 2,768			
支出の部				(単位：円)		
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要		
設備補助支出	0	0	0			
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置備品購入のための定期積立金(普通預金口座から振替) 定期積立金設定日:2009年5月21日 定期預金額:8,000,000円 期間等:1年、満期自動継続		
次年度繰越金	18,230,796	18,233,564	△ 2,768			
合 計	18,230,796	18,233,564	△ 2,768			
(2) 定期預金の部				(単位：円)		
預入日	満期日	金 額	自動継続金額	利 息	利息合計	摘 要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	(預金期間年利率0.2%)
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	(預金期間年利率0.06%)
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	(預金期間年利率0.025%)
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	(預金期間年利率0.025%)
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	(預金期間年利率0.025%)
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	(預金期間年利率0.025%)
2015年5月21日	2016年5月21日	8,023,370	8,025,074	1,704	25,074	(預金期間年利率0.025%)
2016年5月21日	2017年5月21日	8,025,074	8,026,773	1,699	26,773	(預金期間年利率0.01%)
2017年5月21日	2018年5月21日	8,026,773	8,027,453	680	27,453	(預金期間年利率0.01%)
2018年5月21日	2019年5月21日	8,027,453	8,028,133	680	28,133	(預金期間年利率0.01%)
2019年5月21日	2020年5月21日	8,028,133	8,028,815	682	28,815	(預金期間年利率0.002%)
2020年5月21日	2021年5月21日	8,028,815	8,028,951	136	28,951	(預金期間年利率0.002%)
2021年5月21日	2022年5月21日	8,028,951	8,029,087	136	29,087	(預金期間年利率0.002%)
2022年5月21日	2023年5月21日	8,029,087	8,029,223	136	29,223	(預金期間年利率0.002%)
2023年5月21日	2024年5月21日	8,029,223	8,029,360	137	29,360	(預金期間年利率0.002%)
2024年5月21日	2025年5月21日	8,029,360	8,031,060	1,700	31,060	(2025年5月21日(満期日)(※))
※ 預金期間年利率0.025%						
(3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合)				(単位：円)		
区 分	予 算	決 算	差 異	摘 要		
普通預金	18,230,796	18,233,564	△ 2,768			
定期預金	8,029,497	8,031,060	△ 1,563	2025年5月21日(満期日)(※)		
合 計	26,260,293	26,264,624	△ 4,331			
※ 預金期間年利率0.025%						

2025年度 山梨英和大学設備補助積立金会計予算書

(1) 普通預金の部					(単位：円)	
収入の部						
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要		
前年度繰越金	18,233,564	17,225,879	1,007,685			
設備補助積立金(定額繰入)	932,000	1,002,000	△ 70,000	本会計から繰入(前期会費納付者数@2,000×466名)		
設備補助積立金(特別繰入)	0	0	0			
預金等利息	30,882	2,917	27,965	(2025年5月1日現在普通預金金利0.2%)		
合 計	19,196,446	18,230,796	965,650			
支出の部					(単位：円)	
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要		
設備補助支出	0	0	0			
設備補助積立金	0	0	0	学生会館(クラブハウス)内設置備品購入のための定期積立金(普通預金口座から振替) 定期積立金設定日:2009年5月21日 定期預金総額:8,000,000円 期間等:1年、満期自動継続		
次年度繰越金	19,196,446	18,230,796	965,650			
合 計	19,196,446	18,230,796	965,650			
(2) 定期預金の部					(単位：円)	
預入日	満期日	金 額	自動継続金額	利 息	利息合計	摘 要
2009年5月21日	2010年5月21日	8,000,000	8,012,800	12,800	12,800	
2010年5月21日	2011年5月21日	8,012,800	8,016,646	3,846	16,646	
2011年5月21日	2012年5月21日	8,016,646	8,018,576	1,930	18,576	
2012年5月21日	2013年5月21日	8,018,576	8,020,174	1,598	20,174	
2013年5月21日	2014年5月21日	8,020,174	8,021,772	1,598	21,772	
2014年5月21日	2015年5月21日	8,021,772	8,023,370	1,598	23,370	
2015年5月21日	2016年5月21日	8,023,370	8,025,074	1,704	25,074	
2016年5月21日	2017年5月21日	8,025,074	8,026,773	1,699	26,773	
2017年5月21日	2018年5月21日	8,026,773	8,027,453	680	27,453	
2018年5月21日	2019年5月21日	8,027,453	8,028,133	680	28,133	
2019年5月21日	2020年5月21日	8,028,133	8,028,815	682	28,815	
2020年5月21日	2021年5月21日	8,028,815	8,028,951	136	28,951	
2021年5月21日	2022年5月21日	8,028,951	8,029,087	136	29,087	
2022年5月21日	2023年5月21日	8,029,087	8,029,223	136	29,223	
2023年5月21日	2024年5月21日	8,029,223	8,029,360	137	29,360	
2024年5月21日	2025年5月21日	8,029,360	8,031,060	1,700	31,060	
2025年5月21日	2026年5月21日	8,031,060	8,032,760	1,700	32,760	2026年5月21日(満期日)(※)
※ 預金期間年利率0.025%						
(3) 設備補助積立金合計(満期日解約の場合)					(単位：円)	
区 分	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要		
普通 預 金	19,196,446	18,230,796	965,650			
定 期 預 金	8,032,760	8,029,497	3,263	2026年5月21日(満期日)見込額(※)		
合 計	27,229,206	26,260,293	968,913			
※ 預金期間年利率0.025%						



山梨英和大学

2025年度 後期行事予定(学年暦)

9月

22日 後期・第3クォーター授業開始
24日 後期始業礼拝

1月

8日 授業再開
30日～ 春季休業(3/31まで)

10月

1日～ 後期学費・後援会費等納付期限
15日 半日修養会(1・2時限通常授業なし)

2月

19日 成績発表
(通年・後期・第4クォーター科目)

11月

1-2日 学園祭(紅楓祭)
17日 第4クォーター授業開始
25日 クリスマスツリー点火祭

3月

12日 卒業礼拝
13日 学位記授与式

12月

12日 成績発表(第3クォーター科目)
クリスマス礼拝(1・2時限通常授業なし)
23日～ 冬季休業(1/7まで)

大学ホームページ ▶



山梨英和大学【後援会事務局】 〒400-8555 山梨県甲府市横根町888 / TEL:055-223-6020

Maple College

2025年度 後期開講講座のご紹介

文学、芸術、心理学、社会、地域、自然、健康などさまざまな分野で、最先端をいく講師の先生方をお招きしています。コロナ禍に象徴されるように不安が蓄積されていく時代に、世界から吹いてくる新鮮な空気に触れる機会として、山梨英和大学メイプルカレッジの各講座を、ぜひご活用ください。

モチベーションの心理学



講師 佐柳 信男 本学教授

自分がやらなければならないことに前向きに取り組むにはどうしたらいいのでしょうか。家族や周りの人が自発的に物ごとに取り組むにはどうしたらいいのでしょうか。より前向きに「やる気」を持つための実践的なヒントについて講義します。複雑な現代社会でも答えは案外シンプルかもしれません。

日程(全3回) ①10/22(水) ②11/5(水) ③11/19(水)
時間 19:00～20:30 受講料 4,500円 申込締切 10/8(水)

～Media English～メディア英語



講師 根木 英彦 本学専任講師

学校の教科書で学んできた、いわゆる「教室英語」ではなく、実際にメディアで使用されている「生きた英語」を学ぶ講座です。平易な単語の組み合わせでも一つのまとまりとして捉えにくい慣用表現や、文化的背景がわからないと理解できないコメディアンなどにも焦点をあて言語の本質にせまります。

日程(全4回) ①10/29(水) ②11/5(水) ③11/19(水) ④11/26(水)
時間 13:30～15:00 受講料 6,000円 申込締切 10/15(水)

富士山噴火について



講師 藤井 敏嗣氏

山梨県富士山科学研究所所長、東京大学名誉教授。東京大学理学系研究科博士課程修了、理学博士。専門はマグマ学、火山学。東京大学地震研究所教授、東京大学理事・副学長などを経て現職。著書に「火山：地球の脈動と人との関わり」など。

富士山は1707年の宝永噴火までの5300年間に180回以上の噴火を繰り返した活火山であるが、その後、平均的噴火間隔の10倍以上となる約300年間噴火をしていない。地下深くではマグマの活動を示唆する低周波地震も続いていることから、いつ噴火しても不思議ではないと思われる。富士山の噴火の特徴を知って、次の噴火に備えたい。

日程 11/18(火) 時間 13:30～15:00 受講料 1,500円 申込締切 11/4(火)

お申込み
お問合せ

山梨英和大学 メイプルカレッジ

☎ 055-223-6034

✉ extension@yamanashi-eiwa.ac.jp

受講料の割引について

本学院中高生・大学生・大学院生 無料
本学院園児・中高生・大学生の保護者/短期大学・大学卒業生 2割引
メイプルメイト(要入会) 1割引(入会料1,000円)



大学サイト
メイプルカレッジ